



現代はとても子ども達にとつて、生きづらい世の中なのかもしません。それは高度に発達した社会により人間が人間として生きていくために必要なものが失われてしまっているからかもしません。それを端的に表しているのが、今、巷で話題になつてゐる学級崩壊やいじめ、不登校なかも知れません。また、少年達の「きれる」という言葉に代表されている行動なのかもしません。

それでは、人間として生きていく上で何が、失われてきているのでしょうか。ある所でこんな話を聞きました。現在は父親が子どもを叱らないと言うのです。なぜ、叱らないのでしょう。その人が言うのには、「仕事が忙しく、たまにしか子どもとは顔を合わせることがない、それならば一緒にいる時ぐらいいはいいお父さんでいたい」と思つてゐるためだというのです。そういう父親が多くなつてゐるのは事実かもしれません。

でも、それでいいのでしょうか。いつもいい顔をしてゐる父親は子

どもたちにとつて、必要なのでしょか。父親が子どものころは、良いことは良い、悪いことは悪いと厳しく教えてくれる厳父（かみなり親父）がいたのです。その中で子どもたちは社会で許されないことは何なのか、人間として、してはいけないことは何なのかを覚えてきたのです。つまり「父性的なしつけ」が家庭の中に厳然と存在していたのです。

また、地域にも「かみなり親父」がいて、地域の中で、子どもたちがしてはいけない事をしたり、他人に危害を加えたりすると、本当にかみなりを落としてくれた。さらには地元には口うるさいおばさん達がいて、中学生や高校生がたばこを吸つたりしていると注意をしてくれた。そう言わることが嫌で、自分たちで注意しあつたものです。

さらに、学校でも「かみなり親父」的なこわい先生がいた。社会でいけないことは学校でもだめだ。大人に許されることは、子どもでもだめだ、と厳しく指導し

てくれた。

さて、現代はどうだろう。家庭には、物分かりのいい父親と子どもの事を絶対的に信じる母親、祖父母達がいる。地域には、中・高校生がたばこを吸つてゐるのを見ぬふりをしている大人達。また、学校では子どもたちの自主性や個性を重視し、叱ることが少なくななる傾向がある。

このような状況の中でさえ、多くの教育書や育児書を見ていると、子どもの可能性を育てるためには子どもの良さを認め、褒めながらしつけをする事の大切さが懇々と書かれているものが多い。それはそれで大切な事なのだが、子どもを信じるだけで本当にいいのだろうか。子どもと親とのかかわりの中にはベースとして母性がある。母性は絶対的な愛により生まれるもので、全てを許すことから始まる。その母性的なしつけは、親子関係のベースである。そのベイスが確立されているのなら、今こそ「かみなり親父」的な父性的なしつけが必要な時ではないでしょうか。いけないことはいけないと言える「かみなり親父」が現代の社会では必要だと思います。そして、母性的なしつけと父性的なしつけを家庭内で使い分けることのできる親こそを今の子どもたちは待ち望んでいます。

净化槽は、微生物の働きで汚水をきれいにするものです。微生物が働きやすい環境を維持するため、净化槽の適正な管理を行いましょう。

▼法定検査

指定検査機関の行う検査を年に一回実施しましょう。

申込先 (社) 山梨県净化槽協会

検査センター

☎ 055 (232) 2762

▼保守点検

知事の登録を受けた保守点検業者による点検を、毎年法律で定められた回数実施しましょう。

※保守点検業者の問合先

大月保健所衛生・環境課

▼清掃
净化槽の清掃を、毎年法律で定められた回数実施しましょう。

生活習慣病と健康管理

相談日 每月第一・第三水曜日
(要予約) 大月保健所地域保健課

対象者 糖尿病、高血圧、高脂血症、肥満などの病気のある方

病態別栄養相談のご案内

伝言板

大月保健所

大月市大月町花咲1608-3

☎ (22) 7824

浄化槽を設置している皆さんへ

保健所では、生活習慣病を有する方、または健康管理上専門的な栄養指導が必要な方に、それぞれの病態に合った食生活・生活習慣の指導を行い、疾病の改善に向けお手伝いをしています。

お気軽にご相談ください。

従来成人病と呼ばれていた病気の多くのものは、遺伝だけではなく生活習慣と深い関連があるので、最近では生活習慣病といわれています。

偏った栄養や運動不足、喫煙や過度の飲酒、またストレスの多い生活は、健康を損なうもとです。日々から自分の健康を管理して病気を予防し、「自分の健康は自分で守る」ようにすることが大切です。